MARCH 2023　葬儀業界最大手の燦ホールディングスがライフエンディングの最新情報をお届け　VOLUME 08

SAN HOLDINGS Heartful

燦ホールディングス ハートフル

燦ホールディングス株式会社
SAN HOLDINGS

不安だらけの老後でなく、希望に満ちた未来に

終活（ライフエンディングプラン）の転換期が到来。自分の人生を楽しく生きるための計画にシフト。

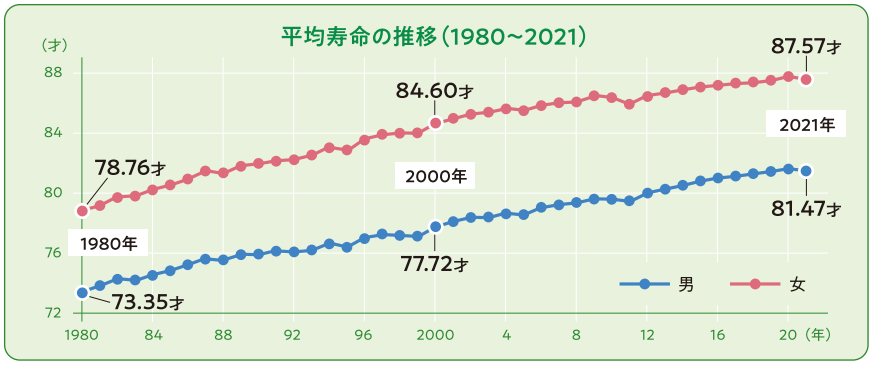
超高齢社会の到来、核家族や単身世帯の増加を背景に、ライフエンディングに向けた人生設計への必要性が高まってきました。
2022年7月に厚生労働省が発表した平均寿命の推移によると、日本人の平均寿命は、2000年は女性84歳、男性77.72歳だったところ、2021年には女性87.57歳、男性81.47歳と年々延びています。定年後にも長い人生が続くと考えると、終活は終末に向けた準備だけでなく、セカンドライフを充実させるための計画へと変わりつつあります。終活という言葉が広まってから10年以上経過した今、転換期を迎えた終活についてご紹介します。

これからを楽しく生きるための終活とは

いまや、“人生100年時代”といったキーワードは、知らない人はほぼいないというほどに浸透してきました。それと同時に、老後への漠然とした不安を抱える人も増加しています。抱える不安は人それぞれですが、健康への不安、老後の資金、住まいの問題など、特に老後の生活に関する不安のウエイトが大きいようです。

そもそもこのような漠然とした不安を抱える前に、発想を転換し、“これからの人生をどうしたいのか”を考えることが、新たな終活の視点であり、これからの人生を楽しく充実したものに導いてくれるのです。今までの終活は、どちらかというと“遺された人に迷惑をかけないための準備”として始める人が多く、自分の本音に向き合う機会が少なかったように見受けられます。

ライフエンディングに向けて、やりたいことが見えると必要な資金や住まいなど、準備すべきことも具体的になり、漠然とした不安が明確な目標になり、これからの人生をポジティブに考えることができます。



出展：厚生労働省HP「令和3年簡易生命表の概況」

自由な発想で、がんばりすぎない終活を始めよう

終活の内容は個々人の状況により異なりますが、一般的に“お墓の準備/墓じまい”、“荷物の整理”、“相続/財産管理”などをイメージする人が多いのではないでしょうか。実際に一般的な終活に関する書籍やWEBサイトでもよく紹介されている内容です。もちろんこれらも終活には必要なことではありますが、新時代の終活は、“これからの人生をどうしたいのか”を起点に、これからの人生を楽しく充実したものにするために、今までの概念にとらわれず自由な発想で終活の幅を広げていくことがポイントです。

例えば…

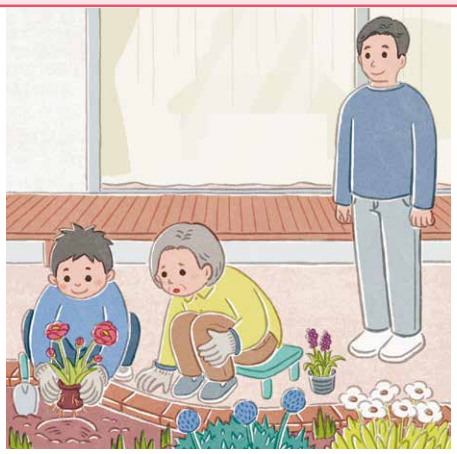
「大切なものを家族にゆずりたい」	▶	ジュエリーのリフォーム/スーツのリサイズなど
「シニアに優しい家に住みたい」	▶	自宅のリフォーム/住み替え
「荷物をただ捨てるのでなく有効に活用したい」	▶	買取サービスなどを利用する
「老後にお金の心配をしたくない」	▶	ファイナンシャルプランを考える
「葬儀費用は自分で準備したい」	▶	葬儀保険を検討する
「家族とたくさん思い出をつくりたい」	▶	旅行/食事会などの計画
「学び直しをしたい」	▶	社会人大学に入学

益田ファミリーのライフエンディングのお悩みをプロが解決

家族として、親の幸せを第一に考えたい。親の終活（ライフエンディングプラン）は何からはじめる?

ふとした瞬間に親の老いを感じたとき、親の老後のことが心配になり終活を勧めたいと思う人は多いのではないでしょうか。しかし、親に「終活をやったら」とは言いにくいもの。どうしたら自分の気持ちを上手に親に伝えることが出来るかは、プロに頼るのもひとつの選択肢です。

週末の自宅の庭で、母 公子の趣味のガーデニングを、孫の豊が祖母を気遣いながら手伝っているところを見ていた長男の誠。豊の成長した姿に感動しつつ、母公子の衰えにも気づき、益田家の長男として何かできることがあるのではと、ネットを調べると、終活よろず相談を見つけ、電話相談してみました。



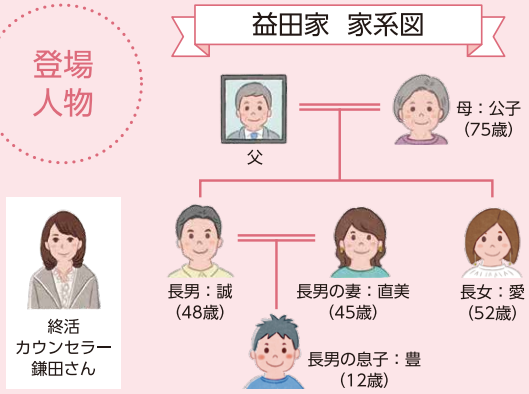
（回想）：おっ! 豊が母さんのガーデニングを手伝っているのか。豊も大きくなったなあ。

豊ちゃん、おばあちゃん疲れちゃったからそろそろおしまいにしようか。

え～。まだ雑草残ってるのに? じゃあおばあちゃん休んでいていいよ。僕やるから。

（回想）：最近母さん体力落ちたなあ。いつも一緒だと気づかないけど、少し老けたかな?

登場人物



ああ。誠いたのね。

母さん大丈夫?

大丈夫よ。豊ちゃんが手伝ってくれるから助かるわ。早いわねえ、豊ちゃんも12歳か。
私も歳をとったはずよね。

――その夜　誠と直美の寝室

どうしたの?

今日、豊が母さんのガーデニングを手伝っているのを見て、改めて母さん歳をとったなあと思ってさ。

最近、疲れやすいみたいだし心配だね。

母さんには幸せな老後を過ごしてほしいと思うし、長男として、少しづつ益田家のことも引き継いでいかないとと思うのだけど、僕から「終活やろう」とは言い出しづらいし。

やりたいことは人それぞれです。みなさんが考えるやりたいことは無限にあることでしょう。終活は、がんばりすぎず楽しむことが長続きの秘訣です。

信頼できる
終活の専門家と一緒に

がんばりすぎず楽しむ終活には、もう1つ大切な要素があります。やりたいことはあっても、具体的にどうすれば良いかわからないことも出てくると思います。そのような時に頼れるパートナーとなる終活の専門家を探しておくことが、終活を長続きさせる秘訣です。

住宅のリフォーム業者、不動産仲介者、ファイナンシャルプランナー、司法書士、弁護士など、終活に関係のある専門家や業者は多岐に渡ります。自身で探すのは大変ですし、安心して相談できるのかどうかの不安もあります。そこで、ライフエンディングサポートをトータル的にアドバイスする、豊富な経験を持つ終活カウンセラーといった有資格者をパートナーにすることで、終活は更にスムーズにストレスなく進めることができます。

難しいね。

ちょっとネットで調べてみるか

「終活あんしんよろず相談」ってところが無料で相談できるらしい。

へえ～。明日電話してみたら?

――翌日　誠のお昼休み中

はい。終活あんしんよろず相談です。

もしもし、初めての電話でどのように相談したら良いのかわからないのですが。
母のことで相談をしたいのですが。

ご安心ください。どのような事でも結構ですのでお話しください。

75歳の母と私と妻と息子の4人で同居しているのですが、そろそろ将来に備えて何か準備を始めたほうが良いのではないかと思っています。母には「終活をやろう」とは言いにくくて。まずは僕だけで何かできることがないかを知りたいのですが。

そうですね。言い出しにくいお気持ちはよくわかります。普段お母さまとはよく話されますか。

もともとは話すほうだとは思いますが、最近仕事も忙しくて話すことが減りました。

そうですか。私は母とは離れて暮らしているのですが、久しぶりに実家に帰ったときにテレビの音量がものすごく大きくなっていて、母の聴力の衰えに気づき、その時から母の終活をはじめました。まずは母の生活情報を収集するため、帰省する度に郵便物のチェックや、母とのコミュニケーションと健康チェックをするために年に1回旅行をしています。もう10年以上たちますが、旅行は母の思い出の地だったり、古い友人を訪ねたり、母との思い出づくりになっています。

母の介護や、相続などといった終活をイメージしていましたが、年に1回の旅行というのも良いですね。年に1回の楽しみになりそうです。

家では話づらいようなことも旅先では話せたりといったこともあるので、ぜひお母さまとのコミュニケーションを深めるという意味でもお勧めです。息子さんも喜ばれると思いますよ。

また、相談したいことができたら電話します。

はい。お待ちしています。

終活 あんしん よろず相談 ダイヤル

みんなが選んだ終活 検索

https://www.eranda.jp

この人に聞きました！

ライフフォワード　執行役員
終活カウンセラー
鎌田真紀子（かまた まきこ）

20年以上、終活関連の業務に従事。（株）ライフフォワードで運営しているポータルサイト“みんなが選んだ終活”にて、長年の経験と自身の喪主経験やお墓探しの体験などを活かして、終活全般についてお客様のお困りごとを解決するサポートを行っている。

終活の事例集

実は葬儀を終えてからが大変
お墓、相続の手続きなど様々なお困りごとを葬儀社でも対応

公益社では葬儀を執り行ったご遺族に、葬儀後のお困りごとの相談を受けています。相談は、お墓や相続などの葬儀直後に必要なことから、将来に備えての残されたご家族のライフエンディングサポートに発展し、何年にも渡る長いお付き合いになることもしばしば。長年カスタマーサービス部でご遺族の相談に対応する、中島氏、星本氏に実際にあった事例を聞きました。

事例1 旦那様を亡くされ元気を失った80代後半の母親を気遣った長男が親の終活に取り組む

長く闘病されていた旦那様を亡くされた80代のお母さまは、葬儀直後は気丈にふるまわれ、当社では、相続の際の専門家の先生のご紹介と、仏壇のご購入のお手伝いをしました。しかし、しばらくすると相続手続きの途中で、お母さまは体調を崩され今は入院を余儀なくされています。同居していた60代のご長男から相談を受け、家族信託の検討などをしながら、お母さまの遺言書作成、相続手続きを完了しました。その後も、ご長男からは何かとご相談をいただき長くお付き合いをしています。

事例2 親子が離れて暮らしているため、もろもろ手続きが難航 公益社が間に入ることで葬儀後の手続きをスムーズに

亡くなられたお父様とは、本当に長いお付き合いで、一人暮らしの妹さんが亡くなられ、公益社で葬儀を執り行われたのが最初の出会いでした。生前に自宅を新築された際に、荷物の整理や仏壇のご購入のお手伝いもしました。このようにきちんと準備をされる方だったので葬儀後特に困ることもなかったのですが、自宅に住まわれている70代のお母さまと40代の息子2人が離れて暮らしていることから、もろもろ手続きが難航し、公益社でお手伝いをしました。息子さんからはお母さまの今後のライフプランを相談したいとのお話がありファイナンシャルプランナーをご紹介し、現在相続内容や保険などの整理を始めているところです。

葬儀後、カスタマーサービス部のスタッフが、遺族のお宅を訪問し、これから必要な手続きなどのご説明をし、ご相談を受けるのですが、何を相談すればよいかわからない人がほとんどです。また、ご遺骨の埋葬やお墓など選択肢が増えていることもあり、迷われる方も多いです。我々は、常にご遺族にとって有益な情報を先読みし、提供していくことを心がけています。

例えば、今後予定している法改正、税制のことなどをご説明した上で、適切な対応をアドバイスするようにしています。
ご遺族から気兼ねなくご相談いただくのも信頼関係を築けてこそ。

中島 浩貴（なかじま ひろき）
勤続年：11年　資格：お墓ディレクター2級

星本 幸司（ほしもと こうじ）
勤続年：13年

燦ホールディングス グループとは

1932年に「株式会社 公益社」として創業、2004年持株会社制への移行に伴い、燦ホールディングスに商号変更。グループには「株式会社 公益社」（持株会社制への移行時に会社分割により新設）、「株式会社 葬仙」、「株式会社 タルイ」の葬祭事業3社および葬祭サービスに必要な機能を提供する「エクセル・サポート・サービス株式会社」、ライフエンディングサービスのポータルサイトを運営する「ライフフォワード株式会社」から成り、葬儀を中心としたライフエンディングサポート事業を展開しています。1994年に葬儀会社として初めて株式を上場（当時の大証新二部）。現在は、全国に約5,000社あるといわれる葬儀会社の中で数少ない東証プライム上場企業です。
https://www.san-hd.co.jp/

シニア世代とそのご家族の人生によりそい、ささえる
ライフエンディングパートナー

SAN HOLDINGS Heartful Vol.8（2023年3月発行）　発行：燦ホールディングス株式会社　編集：株式会社インテグレートコミュニケーションズ　TEL：03-5464-2046　担当：村山（amurayama@integrate-com.co.jp）